

C-94 体格と衣服寸法に関する意識調査 (第3報)

相愛女短大 ○中野慎子

京都女大家政 大志万八栄子 山名信子

目的 前報において、学生と母親を対象に自己の体格や身体寸法の認識と既製服寸法との関連について報告した。今回は既製服の不適合者が多くみられた大きいサイズの利用者のミセスを対象に、身体寸法と衣服寸法についての意識調査をおこなった。同時に身体計測を実施し、自己の体格の認識の相異ならびに服種別、部位別に既製服の適合度、JISとの関連について調査をおこなった。

方法 1976年11月～1977年4月にかけて、京阪地方に在住し、現在自分の胸囲寸法が85cm以上あると意識しているミセス26～53才、163名を対象とした。調査実施方法としては質問紙調査法により直接記述方式で回答を得た。身体計測は、身長、体重、胸囲、胴囲、腰囲の5項目の計測をおこなった。

結果 身体計測値と現在寸法(自己の思っている寸法)において平均値では近い値を示しているが個人差が大きく、現在寸法胸囲90cmの計測値は83～96cmで±約6cmの差があり自己寸法の認識の不正確さが認められる。

胸囲と腰囲について、市販既製服表示寸法と計測値とを比較した結果、寸法の大きい人を対象にした本調査の回帰直線と既製服寸法との間に、胸囲が大きくなるほど大きな差が認められ、腰囲に比べて胸囲の大きい人が多い。

ミセスJISのドロップ20cm以上、ならびに胸囲97, 100のサイズの人が多くみられたが、これらの適合するJISサイズはみあたらない。しかしドロップが大きくてもずん胴と認めている人が多く、寸法のみで表現されないミセスの体型の特徴の要素を含んでいる。